

## ニュースレター目次

- パイロット活動の開始-ジェンダー分析、ビジネス分析研修の実施（シェムリアップ州）
- 研修の継続とモニタリング（コンポントム州）
- パイロット活動の実施に向けて（トボークモム州、コンポントム州）

## 活動のアップデート

- 2019.7
  - 《コンポントム州》
    - ・第2回ジェンダー研修
    - ・第7回技術研修（ビジネス計画）
    - ・第9回 WEE-WG 開催
  - 《シェムリアップ州》
    - ・ジェンダー分析とビジネス研修の実施
  - 《コンポントム州》
    - ・第2回ジェンダー統計ワークショップ開催
  - 《運営指導調査》
- 2019.8
  - 《コンポントム州》
    - ・第8回技術研修（成功農家視察）
    - ・第2回モニタリング
  - 《トボークモム州》
    - ・ジェンダー統計ミーティング
    - ・パイロット活動実施準備
- 2019.9
  - 《コンポントム州》
    - ・第3回ジェンダー研修
    - ・第9回技術研修（帳簿／事業資本）
  - 《シェムリアップ州》
    - ・ビジネス収支分析研修
  - 《トボークモム州・コンポントム州》
    - ・パイロット活動実施準備

## パイロット活動の開始-ジェンダー分析、ビジネス分析研修の実施（シェムリアップ州）

シェムリアップ州では2つのコミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)サイトで、パイロット活動を始めるにあたりジェンダー分析とビジネス分析を実施しています。7月の研修参加者は以下の通りです。

対象の CBT	内容	参加者数
カナーポー村	・ジェンダー分析	72(女性 53 男性 19)
	・ビジネス分析	21(女性 19 男性 2)
コンボンブルック村	・ジェンダー分析	56(女性 49 男性 7)
	・ビジネス分析	27(女性 27 男性 0)

ジェンダー分析のセッションでは、ビジネスに関する資源と便益へのアクセス及び管理についてジェンダー視点での分析を行いました。このグループワークでは、まず模造紙を使って、自分たちの村でビジネスの立ち上げあるいは拡大する際に利用可能な資源とその便益をリストアップし、それらのアクセスと管理にどのようなジェンダーギャップがあるか、グループで経験を共有しながらレーティングをしました。州女性局と連携局のメンバーの丁寧なファシリテーションによって、参加者が主体的に取り組みながら活発な議論を行うことができました。



活発な議論をしているグループワーク



ビジネス分析研修の発表資料

分析結果として、2つの村ともに「アクセスと管理における極端な男女差はない」というものが多い結果となりましたが、女性省計画統計局長が議論の振り返りの際に改めて確認を行ったところ、研修参加の機会や情報へのアクセス、資金管理等については、一定のジェンダーギャップがあることがわかりました。続くビジネス分析研修では、参加者が行っているビジネス（野菜栽培、箒作り、家畜、ホームステイ、牛車による観光地巡り、船でのトンレサップ湖周遊）に関して、4P(商品・サービス、価格、流通、販売促進)の視点で今まで行った改善活動とその結果について分析しました。一連の研修を通じて、参加者は自身の現在のビジネスを分析し、ビジネスの改善計画を作成していき、連携局はこれを支援します。その後、参加者が作成したビジネス計画を、実現可能性の観点から選定し、それらの実施を支援していきます。

## 研修の継続とモニタリング (コンポンチュナン州)

コンポンチュナン州では引き続き、ジェンダー研修と技術研修を行っています。7月には9回目のWEE-WGミーティングを開催し、活動の進捗状況の確認や課題の共有等を行いました。



第9回 WEE-WG ミーティングの開催

第2回目となるジェンダー研修では、男女間の労働・役割分担をテーマとした第1回研修に続き、女性の経済的エンパワーメント(WEE)を促進するための5つの要因(養鶏活動を通じた①研修などへの参加の機会、②スキルや知識、マーケット情報に関する情報共有、③役割分担、④家計(収入)管理、⑤意思決定)について、グループワークによって現状と課題を分析しました。この研修には、全体で65名(女性49名、男性16名)の参加がありました。



技術研修: ビジネスプラン作成

参加者からは、「ジェンダーについて理解し、平等な役割分担を実践していると思っていたが、実際には特に意思決定や家計管理は男女間で平等に行われていないことが分かった」、「日常的な意思決定は女性もしているが、バイクや農機具などを購入する際の意思決定は全て男性が行い、男女間の違いがあることが分かった」といった感想があり、ジェンダー視点の理解が深まっていることがわかります。また、技術研修ではビジネスプランの作成について、労働・職業訓練局や農業局が中

心になってファシリテーションを行い、研修を進めました。グループワークでは、イラストが入ったカードを使用したため、非識字の女性も積極的に研修に参加している姿が見られました。

8月には、WEE-WGメンバーによる第2回目のモニタリングを行い、コンポンチュナン州での活動の課題を特定し、対策を検討しました。技術面では、雛の予防接種の実施者が少ない、雛の選別方法がわからないといった課題があり、今後アニマルヘルス・ワーカーとの協力を通じたフォローなどの対策案が出ました。ジェンダーの観点からは目立った課題はありませんでしたが、研修で得た知識を夫と共有するという点で難しさを感じている女性も若干いたため、州女性局は今後共有を一層促していきたいとしています。

## パイロット活動の実施に向けて (トボークモム州、コンポントム州)

トボークモム州とコンポントム州では、各州局の既存事業により、ジェンダー視点を取り込むことの意義と成果を学ぶことを目的としたパイロット活動の実施を予定しています。まず女性省カウンターパートが州3ヵ年開発計画や年次活動計画をレビューし、WEEに関連する事業を抽出しました。次に両州の連携局と面談し、具体的な事業内容についてヒアリングを行うとともに、事業の計画や実施にジェンダー視点を現状どのように取り入れているか、各地で活動している女性グループの有無などを確認しました。引き続き、情報収集を行い、パイロット活動の内容を検討していきます。

### ◆運営指導調査(7月22日~26日)◆

7月22日から26日にかけて、JICAジェンダー平等・貧困削減推進室から亀井温子室長、宇佐美茉莉職員、山口綾専門員が女性省を訪問され、女性省大臣をはじめ女性省カウンターパートとプロジェクトの進捗状況の確認及び今後の方向性に関する協議を行いました。プロジェクトで強化するジェンダー主流化メカニズムの内容を確認したほか、より政策に結び付いた活動を行っていくことなどについて合意されました。本結果に基づいてPDMの見直しを行い、2019年10月に実施予定の第3回JCCで協議します。

